夢のつづき〔毎月１日発行〕／第29巻第10号／通巻第299号・令和3年2月1日発行
平成4年10月2日第三種郵便物認可・年間購読料1,700円（郵便料共）

させぼ夢大学
発行●公益社団法人 させぼ夢大学
編集委員会
事務局／〒857-0863
長崎県佐世保市三浦町4-30・松蔵ビル3F
TEL.0956-25-9555 FAX.0956-25-9545
http://www.yumedai.com/
E-mail:sasebo_yumedai@yahoo.co.jp
開催ご案内 25-9556

夢のつづき

させぼ夢大学会報

No.299〈2021・2〉

令和２年度 第9回

2021年 2月18日(木)

アルカスSASEBO 大ホール

【1部】開場 13:30 講演 14:30（終了16:00）

【2部】開場 17:30 講演 18:30（終了20:00）

今回の講師は、精神科医で立教大学教授の香山リカさんです。香山さんは1960年生まれで北海道のご出身です。

東京医科大学を卒業後、精神科医として臨床経験を積まれ、現在は立教大学現代心理学部の教授としてご活躍です。現在も医療現場で臨床を続け、大学で教鞭をとる傍ら、数多くの執筆や講演活動、新聞、テレビを通して、現代人の心の問題を中心に幅広い分野で発信を続けておられます。又、2010年から2016年まで、放送倫理検証委員会の委員を務めておられます。

「しがみつかない生き方」(2009年)「大丈夫、人間だからいろいろあって」(2018年)「医療現場からみた新型コロナウイルス」(2020年) など多数の著書をお持ちです。

昨年来のコロナ禍の中で、今までの普通が通用しない生活を強いられるこの頃。大なり小なりのストレスに晒されている私たちにとって最も聞きたいお話が、今回の「ストレスに負けずに元気に暮らす」ではないでしょうか。きっと、今日から役に立つ、前向きになれるお話が聞けることでしょう。

楽しみですね。

講　師● 精神科医 立教大学現代心理学部教授 香山（かやま） リカ氏

テーマ● ストレスに負けずに元気に暮らす

講演会は1日2回開催です。詳しくは裏面のお知らせを必ずお読みください。

香山　リカ 氏のプロフィール

●1960年北海道出身。東京医科大学卒。豊富な臨床経験を活かして、現代人の心の問題を中心にさまざまなメディアで発言を続けている。専門は精神病理学。「幸福の胸のウチ」「ココロの美容液」「若者のホンネ」「職場で他人を傷つける人たち」「悲しむのは、悪いことじゃない」等の著書あり。放送倫理・番組向上機構(BPO)放送倫理検証委員会委員を務めた。

次回のご案内

■と　き／3月18日(木)

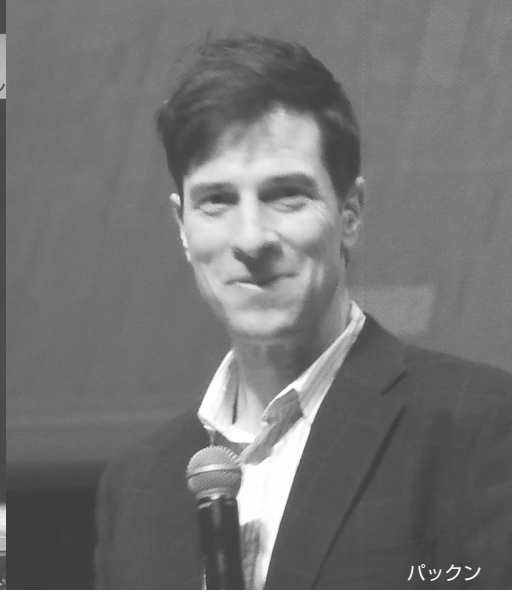
■講　師／経済評論家 ジャーナリスト 荻原（おぎわら） 博子（ひろこ）氏

■テーマ／10年後破綻する人　幸福な人

●1954年長野県出身。経済事務所勤務後、1982年からフリーの経済ジャーナリストとして新聞・経済誌などに連載。1988年、女性誌hanako（マガジンハウス）の創刊と同時に同誌で女性向けの経済・マネー記事を連載。難しい経済やお金の仕組みを生活に根ざしてわかりやすく解説し、現金に徹した資産防衛と家計運営を提唱。新聞・雑誌の連載やテレビのコメンテーターとしても活躍中。著書に「投資なんか、おやめなさい」「年金だけでも暮らせます」「役所は教えてくれない定年前後「お金」の裏ワザ」等あり。

2 2021

マックン


パックン

こころ弾む時間

佐世保市権常寺町　田中　和之

普通はテレビでお笑い番組はあまり見ないけど、この度は本当に「衝撃的」というか、ついついお二人の会話にのめり込んで、自分も一緒にコントをしているかのような「こころ弾む」時間でした。むずかしい話ではなく私たちの日常にも溶け込んだ必要な会話、生活スタイルを、「人格・感情・言葉」という話術の基本的な要素を用い、具体的にコントで会話されたことは非常に参考になりました。実は、これまで何気なく私も頭で考え、行動に移してきたことだったのに、あまりにも度外視してきた感があります。

「どういう人の話を聞きたいか?」「相手の価値観に合わせる」「グループによって価値観が変わる」など、今まで聞き及んだ言葉だったのに、改めて新鮮に聞こえたのは、お二人の会話術のなせる業でしょうか。異国コンビの「外交術、伝え方・話し方」は、今回講演の内容そのものでした。具体性を盛り込んだネタは、もっとお茶の間に浸透するでしょう。今後のご活躍を期待します。

エトス、パトス、ロゴスの三要素

北松浦郡佐々町　法本　安子

コロナ初確認から一年、抑止力も疑問視されるこの不確実な「コロナ時代」に行われるさせぼ夢大学、スタッフの皆様には感謝の一言に尽きます。皆で頑張って乗り切りましょう。中止にならないことを願うばかりです。

今日は、世界唯一のアメリカ人と日本人のお笑いコンビ、パックンマックンの笑劇的コミュニケーション力がテーマであり、先ず軽いウォーミングアップから始まり、いよいよ本番。エトス(人格)、パトス(感情)、ロゴス(言葉)と始まった。あまり聞いたことのない耳慣れない言葉である。

三行感想文　夢のとびら

■佐世保に頻繁に来られていたとは。本当はステージを降りて、来られている方々と触れ合いながらお話をしたかったとのこと。それでもジャンケン判定には笑いました。つい勝とうと思う気持ちがあります。楽しい講演でした。コロナが治まればまた来てください。

佐世保市木風町●西　照美

■パックンマックンの上手で絶妙なコントを交えて、コミュニケーション力は、相手7、本人(自分)3の割合で相手の話を聞くこと、相手の価値観に合わせることも必要とのこと、Ethos(人格)、Pathos(感情)、Logos(言語)の順に話術の3大要素であることも理解できました。

佐世保市栄町●曽我　菜穂子

■受講生参加型の講演は、会場の一体感があり盛り上がりました。コロナ禍で人との会話がとても少なくなってきた現状を、テンポの良い話術で、楽しく明るくして頂きました。初対面の人へも、自分からコミュニケーションをどんどん発信できるような世の中に、早く戻ればと願います。

佐世保市原分町●吉村　和美

■アメリカ人のパックン、日本人のマックンが織り成す話術のテクニックの中で、学生時代に教わった「5W1H」は今でも覚えております。話すことが苦手な私にとっては、一つの秘策のように思われ、これなら簡単にできそうに思います。

佐世保市原分町●吉村　博

■新しい年の初めに楽しいトークが盛りだくさん。人と人との繋がり、コミュニケーションの在り方を受講生を交え、分かりやすく日常の笑いを話題にしながら、アッという間の時間でした。正に笑劇的コミュニケーション力、あっぱれです。

佐世保市赤崎町●木村　典子

■テレビばかりで生のパックンマックンは初体験。実物はテレビより男前でした。テンポの良い2人の掛け合いから元気をもらいました。

佐世保市春日町●有吉　成子

■相手の長所を褒めて、愛のある話し方について教えていただき、ありがとうございました。マックンがコロナに勝った話に勇気をもらいました。

佐世保市大和町●宅島　冨士彌

■今回、マックンの歯切れ良い口調に滑舌の良さ、終始パックンをリードしている様にも感じられました。これまで二人が独立しないで25年間もの長期に渡って異国コンビを続けられるのは、利益の強要が多い芸能界の中で、お互いの絆と、思いやりの精神の上に、成り立っていると思いました。二人の今後の躍進に期待します！

佐世保市崎岡町●村井　政人

■コロナ禍でのパックンマックンの漫才・コントに、私、令和3年の初笑い(無言)が出来ました。とても楽しい90分でした。それにマックンの昨年10月にコロナウイルスに感染した体験話にとても感動致しました。コロナの終息と第30期の当たりを祈っています。

佐世保市野中町●川村　信子

■異国コンビで25年も続いているのは、いかに二人のコミュニケーションがいいかの証明だろう。そのアップの秘訣は、「相手の話をよく聞くこと」とのことに大いに納得。コロナ禍の今、人との接触自粛の中では、お互いのコミュニケーションが一層求められる。相手の立場を理解し、思いやることで生まれてくるものだと思う。惜しむらくは、時事問題の話も聞きたかった。

佐世保市南風崎町●横山　春美

コロナを吹き飛ばす笑劇的コミュニケーション力

コロナ禍で3密、マスクと、コミュニケーションが取りにくい今だからこそ、大切なことかもしれない。一般的に日本人はコミュニケーションを得意としない。そういう訓練を受けていないからだろうか。

話し手自身の人格、品格、人柄に信頼性を感じさせる「エトス」。相手の感情に働きかける、例えばCMなどの「パトス」。「ロゴス」は言葉の力で相手を説得する、インパクトのあるフレーズなど、この三要素を頭の隅に置き、自分に足りないものをチェックして、エトスを高め、パトス、ロゴスを続ける。エトスがなければ人を説得することはできない。ロゴスを満たす正しいことを言っても信頼性に足る人物でなければ、受け入れてはもらえない。可能な限り、この三要素を満たしながら、相手とのコミュニケーションを進めて行きたいものです。

聞く耳を持つことから始めたい

佐世保市日宇町　浦川　恵子

今回は、我が身の反省の講演となりました。最近、お二人での活躍の場も拝見する機会が少なくなっていますが、「お笑い大好き」としては、とても期待するところでした。しかし、意に反して、自分のコミュニケーション力を反省する場ともなりました。

特に心に響いたのは「相手の価値観に合わせていない」コミュニケーションの取り方です。外出する機会も最近少なくなり、たまに友人と会話する事があると、ついつい自分の事を優先してしまう会話となり、自己中心的になっている事を、後ですごく反省します。年を重ねるとなかなか自分を変えられず、頑固になったりしますが、今回の講演を今後に生かせればと思います。又、マックンの更なる努力、ボイストレーニングに英語力と芸の幅をますます広げられ、パックンに劣らず、とても饒舌だった様に感じられ、枠にはまらず日々前進されている事にも深く感動しました。先ずは「聞く耳をもつ」事から始めたいと思います。ありがとうございました。

久しぶりに心が弾んだ一日

西松浦郡有田町　庄村　雅子

新聞を開いてもテレビを見てもコロナの事ばかりで少々うんざりする日々でしたが、今回の講演、楽しく、笑いがいっぱいでした。アメリカ人と日本人のパックンマックンのコンビは、息もぴったりで真面目な話のツッコミに心が和みました。笑劇的コミュニケーション力は、分かりやすく、日常的に使えます。この所、暗い話題が多く、笑い声を出すこともためらわれますが、帰りの車の中では思い切り笑って帰路につきました。久しぶりに心が弾んだ1日でした。ありがとうございました♪

毎回、検温、手指の消毒など、スタッフの方々には感謝の気持ちでいっぱいです。

日常生活での対話の難しさ

佐世保市早苗町　牧　千尋

「させぼ夢大学」の講師のお一人で2017年6月に登壇なさった草野仁氏が、「アナウンサーの仕事（天気予報や司会やスポーツ実況中継等）で、最も大変なのは、インタビューで、未完成の難しさがある。話を伺い、期待に応える」と仰っていたように、私も日常生活での対話（傾聴）の難しさを感じています。

今回のお二人から、その打開策をいくつか頂きました。

①話術の三大要素は、人格と感情と言葉。

②五つの質問を瞬時に考える。そのコツは5W1Hである。

③自分との共通点を探す。

④自分にあるものを活かす。

⑤自己利益（自分のためやライバル潰し等）はアウト。

⑥物語の力。形容詞に頼らない。「感情を引き出す」には、ストーリーを見せると気持ちが動く。

⑦相手の価値観に合わせる。

以上、先ずは相手を思いやり、人の話を聴くことが大事ではないでしょうか。お二人の息があった分、分かり易いお話から、三つのテクニック（人格と感情と言葉）を盛りながら、話を弾ませるポイントを教わりました。今後に活かすべく、一期一会の出会いを大切にしていきます。

講演を聴かれた感想をお待ちしています！！

◎**600字程度**にまとめて、させぼ夢大学事務局まで、郵便・FAX・メール等でお送りください。短文でも結構です。掲載分にはささやかですが記念品をお送りします。

◎締め切りは講演日の1週間後（必着）といたします。感動がさめないうちになるべく早く書いてお出しください。

◎講演直後、三行感想文（60字程度）を書いて、出口の**「夢のとびら投稿箱」**にお入れください。なお、1週間以内にはがき、FAX、メール等で投稿していただいてもかまいません。
年間に2回以上掲載の方には記念品をお送りします。

◎せっかく頂いた原稿でも、紙面の都合上掲載されない場合があります。また一部省略させていただくこともありますので、ご了承ください。

郵送先：〒857-0863
佐世保市三浦町4-30　松蔵ビル3F
ＦＡＸ：0956-25-9545
E-mail：sasebo_yumedai@yahoo.co.jp

夢のつづき（毎月1日発行）／第29巻第10号／通巻第299号・令和3年2月1日発行
平成4年10月2日第三種郵便物認可・年間購読料1,700円（郵便料共）

大切なお知らせ

- 2月18日の講演会は、新型コロナ感染による3密を避けるために、**1日2回講演**にて実施します。**第1回目講演は14時30分から、第2回目講演は18時30分から**です。
- 1回目講演と2回目講演の振り分けは、**1月に送付している「入場証(2月分)」**に記載しています。
- 各講演の時刻表等を記載した入場証に、必要事項をご記入の上、学生証と共にご持参ください。
- ご入場の際は、手指消毒・検温をしますが、体調の悪い方は入場をご遠慮ください。
- できるだけ不織布マスクを着用し、会話は控えてください。
- ホールの客席は一席ずつ空けてお座りください。また、席取りはご遠慮ください。
- １回目と２回目の入れ替え時には、ホール座席等の消毒及び清掃をしています。
- 携帯電話等の各種電子機器は、電源を確実にお切りください。
- 学生ご本人が欠席で代理出席の場合も、必ず、学生証と入場証をご持参ください。もし、両方ともない場合は、万が一、感染者が発生した場合、補足追跡ができませんので、入場をお断りすることになります。

皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

ふるさと
地球科学紀行
－Vol.9－

ダイヤモンドプリンセス

長崎県地学会　松本　直弥

昨年（2020年）初めからの新型コロナウイルス感染症流行により、私たちの生活様式は一変してしまいました。「させぼ夢大学」もしかり。関係のみなさまのご努力に頭が下がります。今回はテーマからは外れますが、私の体験をお話ししてみたいと思います。

私たち夫婦は、2020年1月20日から横浜発着のクルーズ船「ダイヤモンドプリンセス」によるアジアクルーズに参加しました。クルーズ終盤にクラスターが発生し、世界中から注目された船内隔離騒動を巻き起こしたことはご承知の通りです。

まず、2月1日香港政府が「1月20日に横浜から乗船し、25日に香港へ帰国した男性から新型コロナの感染が確認された」と発表しました。しかし、それが船内放送で乗客に知らされたのは、2月3日18時30分頃でした。

予定を早めて3日20時に横浜港沖に到着し、深夜から早朝にかけて全船客の検疫。ただ、この時は問診と体温測定が主で、PCR検査は症状のある30人のみ。翌4日は船内待機ですが、乗客は船内を自由に出歩き、各種イベントも普通どおりに行われていました。我々は平熱だし症状もないので、この時点では直ぐに下船できるものと思っていました。厚労省も船会社も事態を甘く見ていたと思われます。

2月5日の早朝、乗客は船室を出ないように指示があり、次いで「10人から陽性反応が出た、この検疫はあと14日間は続く」とのアナウンス！この放送を境に事態は一変。その後は毎日のように新たな陽性者が検出され、最終的には13名の方が亡くなりました。

我々は船室からほぼ出られない生活が2週間続き、いよいよ下船できるという2月19日になって、妻がPCR検査で陽性と判明！妻は入院、私は濃厚接触者として再び埼玉県の政府施設で2週間の隔離。健康状態に問題が無くPCR検査で陰性が確認されたため、ようやく3月6日に帰宅しました。帰宅しても更に2週間は保健所から毎日確認の電話が。やっとコロナを卒業できたと感じたのは4月になってからでした。

ところで、まだ埼玉で隔離中の2月下旬、「クルーズ船に乗っていたのは佐世保の矢岳町の豪邸に住んでいる人で、19日に下船して四ヶ町を歩いていたらしい。」といった噂が流れていると友人から教えてもらいました。誰でも、どんなに注意しても新型コロナに感染してしまう可能性があります。自分や家族が感染した場合を考えたら、無責任な噂を流すことや、まして誹謗中傷などあってはなりません。

これからは、どこかで折り合いをつけながら、コロナウイルスとの共生を図っていくことになるのではないでしょうか。

10月26日、コロナ中断後のクルーズ再開全国第1便となる「にっぽん丸」が佐世保へ寄港し、出港の際は朝長市長はじめ千人近い市民がお見送りをしました。コロナ禍の象徴となった観があるクルーズですが、港町には欠かせないものと思います。日常が少し近づいてきたと感じました。

10月26日　佐世保港での「にっぽん丸」お見送り

講演を聴かれた感想をお待ちしています！　６００字程度にまとめて、させぼ夢大学事務局まで、郵便・ＦＡＸ・メール等でお送りください。締切日は原則として、講演日の１週間後の木曜日(必着)です。